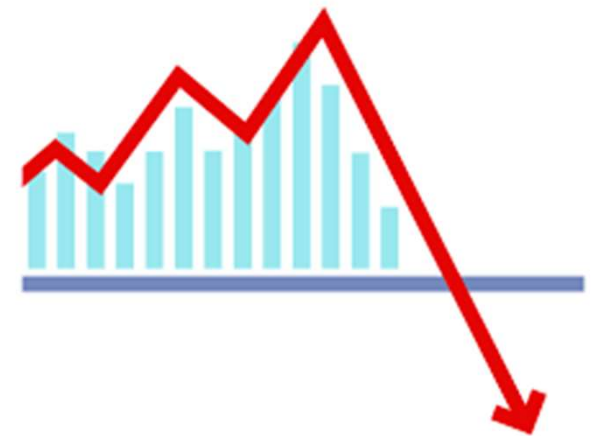


暴落のメカニズム



「メニュー」

- 歴史から学ぶ！
- 「暴落」の4つのカタチ



歴史から学ぶ！

株で失敗するのは、高いところで買って安いところで売るから。



簡単そうで、これが難しい！ 歴史に学ぶことが最も効果的！

「賢者は歴史から学び、愚者は経験から学ぶ」

オットー・ビスマルク(ドイツ元首相)

「未来は過去の延長線上にある」

ピーター・ドラッカー(米経営学者)

「私たちは普段の買い物をする時のように株を買えば、もっとうまくいく」

ジェイソン・ツヴァイク(WSJ紙金融コラムニスト)

「過去を忘れる者は、必ずその失敗を繰り返す」

ジョージ・サンタナーヤ(米哲学者)

「暴落」の4つのカタチ

暴落は資本主義成長のため不可欠な定期的なイベント

年	暴落イベント	下落率	回復までに要した期間(MSCI-World)
1987年	ブラックマンデー	22%	17か月
1990年	日本のバブル崩壊	25%	40か月
1997年	アジア通貨危機	7%	7か月
1998年	ロシア通貨危機	14%	5か月
2000年	ITバブル崩壊	47%	79か月
2007年	リーマン・ショック	55%	76か月
2010年	欧州債務危機1	10%	6か月
2012年	欧州債務危機2	20%	21か月
2015年	チャイナ・ショック	13%	20か月
2020年	新型コロナ・ショック	23%	8か月

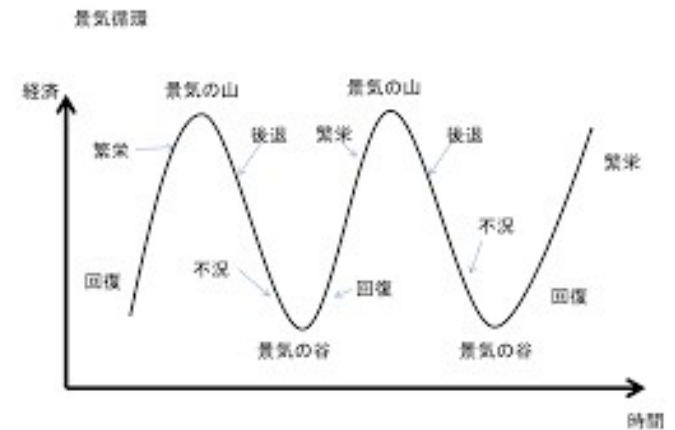
- ① 景気後退型
- ② イベントショック型
- ③ 地域限定型
- ④ 金融システム(バランスシート)崩壊型

「強気市場は悪友、弱気市場こそ真の友」

ウォーレン・バフェット

① 景気後退型

景気循環の波(好況→景気後退→不況→景気回復→好況)中で起きる**マーケットの調整**。
実際の経済よりマーケットの方が先行して動く傾向があるので、好況期の最終局面で下落が始まり、不況期下に反発することが多い。
調整局面は、1～2年。長くても3年程度で回復に向かうことが多い。



② イベントショック型

景気局面とは関係なく、戦争やテロ、予期せぬイベント発生で引き起こされる調整。
湾岸戦争、米国同時多発テロ(9.11)、阪神淡路大震災、東日本大震災、新型コロナ・ショック、
そして、ブラック・マンデーにおける自動売買システムの暴走などが該当。
市場の回復は比較的早いのが特徴。

しかし、イベントが実体経済にどれだけの影響を与えるかを見極める必要がある。長期にわたって企業収益を圧迫する(景気後退期入り)場合は、回復まで時間を要する可能性もある。



③ 地域限定型

限定された地域で起きた経済ショックを基にする調整。

アジア通貨危機、アルゼンチン・ショック、ロシア・ショック、チャイナ・ショック等が該当。世界経済に対する波及効果の大小を考える必要があるが、世界経済に与える影響力の大きい米国、中国、欧州で起きた場合は、回復までに要する時間が長くなる。



④ 金融システム(バランスシート)崩壊型

日本の平成バブル崩壊、ITバブル崩壊、リーマン・ショック(世界金融危機)がこれに該当するが、経済システムや金融システムが崩壊するので、下落の谷(ボトム)が深く、回復までに長い時間を要する厄介な暴落。

金融システムの崩壊は、消費者、企業、金融機関のバランスシートが壊れることで引き起こるため、個人消費、企業の設備投資、金融機関の資金供給が完全にストップしてしまう、いわゆる「資産デフレ」型の経済恐慌を引き起こす可能性がある。

